

3. 環境条件を測定する。

① 日あたり

よく日のあたるところ、半日かげのところ、全くあたらないところなど。

照度計で測定してもよい。

② 湿度 乾湿球温度計のとくに湿球に風が当たるようにする。

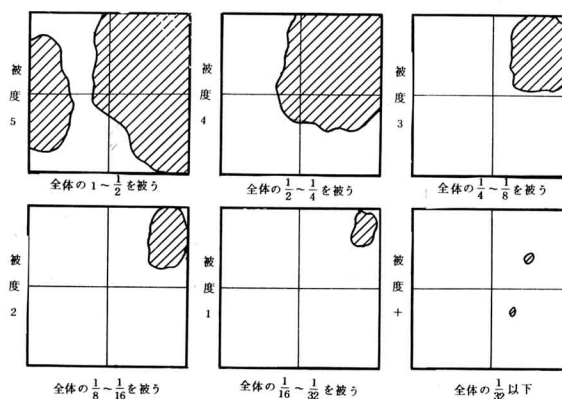


図-23 被度のあらわしかた

③ 温度計 気温 温度計・最高最低温度計、葉温、土壤温度 曲管温度計

④ 土壤水分(%) = (湿重量 - 乾重量) ÷ (湿重量) × 100

簡易判定法 {
 すごく湿っている — 手でにぎると水分がにじむ
 普通 — 手でにぎると形がくずれない
 乾燥している — 手でにぎっても形ができない

⑤ 道路・校庭などでは踏まれかた 多く踏まれる、あまりふまれない、ふまれないなど。

⑥ 田・畑では人手の入った度合い 多い、普通、少ないなど。

4. 調査の結果と考察

この調査は、1974年5月下旬と7月下旬の2回にわたり、教育センターの敷地において行なった。

調査地に、1m²の方形区を10コ、無作意にとり、その個々について種名、被度、頻度を記録した。その結果は、表-1に示したとおりです。

この敷地で、5月下旬には、被度が最も高いのはヨモギで、つぎにミミナグサシロツメクサが続いています。頻度ではシロツメクサが最も高く、つぎにヨモギが続いています。

7月下旬になると、被度ではシロツメクサとヨモギが高く、つぎにヒメジヨオンが続いています。頻度では、ヨモギとヒメジヨオンが最も高く、つぎにシロツメ